

EU委員長の一般教書演説にみる今後の動向

◆フォン・デア・ライエン委員長再任後初の一般教書演説にみる欧州の危機感

2025年9月10日、欧州連合の欧州委員会のフォン・デア・ライエン委員長が、**一般教書演説**を行った。通常は委員会の今後1年の活動方針を示すものだが、冒頭「欧州は戦いの中にある (Europe is in a fight)」という異例の言葉から始まった。ロシアによるウクライナ攻撃、無人機のEU加盟国への領空侵犯などを挙げ、自由で独立した欧州のための戦いだとし、外交・防衛分野での結束を求めた。個別の施策でも、防衛や安全保障の観点からの言及が多いのが特徴的だ。

◆クリーンとデジタルを掲げ、産業政策では従来の方角性の継続を表明

産業政策については目立たった新たな発表はなく、従来の方角性を継続する。環境分野では「**クリーン産業ディール**」に基づく施策の加速について言及した。

個別には、デジタル化の加速や、医療から防衛にまでかかわる人工知能分野への支援、電気自動車などクリーンテクノロジーの実現に必要なバッテリーの欧州での生産拡大への投資などに言及している。また、公共調達に「メイド・イン・ヨーロッパ」の基準を導入するなど、欧州の産業基盤の強化を挙げる。

◆社会不安の原因になる貧困や生活費高騰にかかわる4つの施策

市民生活と欧州の産業に関する視点からは、4つの重点施策を挙げた。

1つ目がエネルギー対策で、ロシアの化石燃料からの脱却と自前の再生可能エネルギーの拡充のほか、原子力をベースロードと位置付けたのが特徴的だ。

2つ目が高騰する住宅価格対策だ。庶民や学生の手が届かなくなった住宅購入・賃貸価格が社会不安をよんでいる。「手頃な価格の住宅計画」には、学生寮新設、支援措置、短期賃貸の規制などが盛り込まれる予定だ。

3つ目が欧州製の手頃な電気自動車の推進だ。自動車産業の未来にも繋がる。

4つ目に高品質で手頃な価格な食品を挙げる。農業・漁業従事者は土地と海、生物多様性を守り、食料安全保障を支える重要な存在だ。彼らを支えるために、輸入品との不公正な競争の是正と「欧州産食品購入」を推進する。【赤山英子】